

2022年10月18日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

子ども食堂とのデータ連携による食品ロス削減に資する仕組みづくり

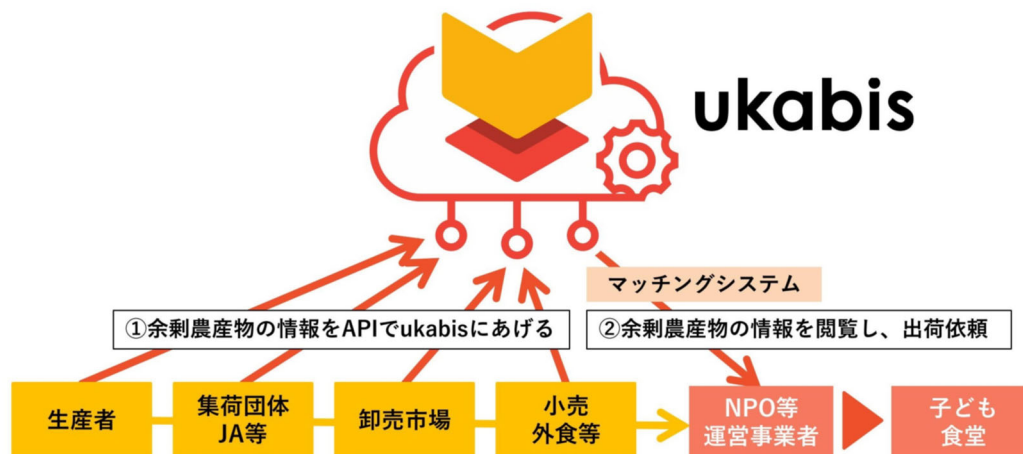
—2度目の実証実験、ukabisの社会実装に向け、対象を拡大して株式会社クラダシと実施—

慶應義塾大学 SFC 研究所（神奈川県藤沢市、所長：飯盛義徳）は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）において、食品ロス削減に資する仕組みづくりの一環として、スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）を用いた余剰農産物のデータ利活用による子ども食堂との連携に向けた取り組みを推進します。

※ 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）は内閣府が科学技術イノベーション実現のために創設した国家プロジェクト。慶應義塾大学 SFC 研究所は、本プロジェクトの「スマートバイオ産業・農業基盤技術」において、食の生産・流通・消費を最適化するデータ連携プラットフォームの社会実装を目指して研究開発を行っています。

慶應義塾大学 SFC 研究所は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）において、ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」を運営する株式会社クラダシ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：関藤竜也）と、ukabisを活用し、企業が保有する食品のデータと、食品の提供を希望する大阪府内の子ども食堂とのマッチングを行う実証実験を実施します。本実証実験は、昨年度に続き2度目であり、前回よりさらに対象とする子ども食堂を拡大して実施します。

実証実験のイメージ



実証実験の詳細は別紙をご覧ください。

※本実証実験は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「スマートバイオ産業・農業基盤技術」（管理人：生物系特定産業技術研究支援センター）によって実施いたします。

※本プレスリリースは、株式会社クラダシと同時に新聞各社社会部等に配信しております。

【本件についてのお問合せ先】

慶應義塾大学 環境情報学部 神成淳司研究室
E-mail: kaminari-core@sfc.keio.ac.jp

【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当
E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp



本実証実験は、慶應義塾大学SFC研究所が参画している内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「スマートバイオ産業・農業基盤技術」※1において、スマートフードチェーンプラットフォーム「ukabis」（以下「ukabis」）※2の社会実装に向け実施された、コンソーシアムメンバーに限らない外部からの新規組織の参入を目的とした「新規ソリューションの検討」の募集に、株式会社クラダシ（以下「クラダシ」）が提案する「子ども食堂への安定的食材提供の仕組み作りと実証」が採択され、実現しました。

■「子ども食堂への安定的食材提供の仕組み作りと実証」の背景

子どもやその両親及び、地域の方々に対し、無料や低額で食事を提供する「子ども食堂」は、食事提供に限らない、子どもの居場所や、地域の人々のコミュニティづくりを担っています。コロナ禍においてもその数は増加し、2021年時点で全国に6,000箇所を超える一方で、多くの子ども食堂は「食材などの不足」を課題に感じており、食材や資金などの支援を求めています。

慶應義塾大学SFC研究所は、クラダシと連携し、フードロスの削減及び支援の輪を広げることを目的に、新たに、子ども食堂に安定的に食品を提供する仕組みの構築を目指し、昨年度より、ukabisとのデータ連携を活用した子ども食堂への食品マッチングの実証実験を行っています。

昨年度は、子ども食堂への食品提供企業として、積水ハウス株式会社、株式会社三井住友銀行、子ども食堂への配送担当企業として、東京・日本交通株式会社にご協力いただき、計1,500食を大阪府内の子ども食堂5団体に提供しました。※3

■今年度の取り組み

今年度は、食品寄贈元企業の所在エリアや寄贈対象の子ども食堂数を拡大するとともに、子ども食堂へのマッチングや配送に係る事前調整、対応工数の削減に向けて、プロセスの効率化の検討を進めてまいります。また、昨年度の常温の災害用備蓄品に加え、冷凍食品のマッチングと寄贈も実施します。

▼本取り組みのスキーム図



【実証実験の予定期間】

2022年10月及び12月

【対象団体】

大阪府内の子ども食堂 20団体以上

【10月の協力企業】

・マルハニチロ株式会社 (冷凍食品 約2,660袋) 他

※1 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」とは内閣府総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮して、府省の枠や旧来の分野を超えたマネジメントにより、科学技術イノベーション実現のために創設した国家プロジェクトです。12のテーマについて、基礎研究から実用化・事業化までを見据えて一貫して推進する研究開発で、本事業は12のテーマの中の「スマートバイオ産業・農業基盤技術」の研究開発事業の一つと位置付けられています。

※2 スマートフードチェーンプラットフォーム「ukabis」とはスマートフードシステムは、農産物を中心に、生産、加工、流通という供給側の視点に加え、消費側からの視点と資源循環や研究開発など食のサプライチェーンにおける「動脈」と「静脈」を循環化した連関モデルです。システムを通じて提供されるデータ・情報、開発技術の提供は、最終利用者たる農業生産者、就農希望者、加工・食品メーカー、流通・小売事業者、輸出入業者、素材メーカーへ、各々のニーズに応じた形の商品・サービスを基盤(プラットフォーム)上への展開によって、食の生産・流通・消費を最適化するデータ連携提供する提供主体者(参画企業や組織体)によって行うことを想定しています。

参考: <https://www.ukabis.com/>

※3 昨年度の取り組みについて

<https://corp.kuradashi.jp/news/22-02-14/>